

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どリーむ
訪問調査日	平成19年10月11日
評価確定日	平成19年11月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どリーむ
所在地	〒891-0603 鹿児島県指宿市開聞十町5210-4(電 話) 0993-32-0313
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年10月11日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年5月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 5人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 130 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宇宿皮膚科 福岡医院 鶴留医院 赤崎病院 宮菌病院 開聞歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑深い山々を背に、南に広がる東シナ海と開聞岳を望む風光明媚な場所に建てられたホームである。入居者の皆さんは、それぞれのペースで、できる事を尊重され、畑仕事や散歩、レクリエーションを楽しんでおられる。併設のデイサービス利用者とは日常的に交流があり、近隣住民の来訪も含めて、地域との関係が途切れることなく暮らし続けることができる。災害時の協力など、地域の温かさを守られている一方、認知症や介護の相談を受けることによって、地域にとっても無くてはならない存在となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の定期見直し期間の短縮化が求められ、短期目標の三ヶ月を目安に定期評価としている。状態変化の際には、期間設定に関係なく随時評価している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員で自己評価に取り組み、職員の気づきや反省の機会として活かしながら、ホームの在り方について再認識できるように努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議ではホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、災害対策なども話し合っている。又、市の担当者から事故事例や新しい情報提供を受けながら、サービス提供に活かせるように取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置したり、面会時に声かけをして要望や意見を出してもらう機会を設け、疑問に対しては説明して納得を得られるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの呼びかけにより、集落の中で協力委員会が作られている。地域の方々がホームに立ち寄り、介護の悩みや不安についての相談を聞き、それらに対応しながら入居者や職員との交流の機会を作っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域におけるグループホームの役割を考慮し、積極的に働きかけながら、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念が、玄関・ダイニング・事務所に掲示されている。又、日々のケアの中で気づいた点は記録に残し、ミーティングで、理念に基づいた具体的なケアの方法について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの呼びかけにより、集落の中で協力委員会が作られている。地域の方々がホームに立ち寄り、介護の悩みや不安についての相談を聞き、それらに対応しながら入居者や職員との交流の機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、職員の気づきや反省の機会として活かしながら、ホームの在り方について、再認識できるように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの活動内容や取り組み状況を報告すると共に、災害対策なども話し合っている。又、市の担当者から、事故事例や新しい情報提供を受けながら、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と、電話やメールで情報交換を行ったり、ホームに立ち寄ってもらい、職員や入居者との交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	催しがある時は通信物を発行したり、面会時や電話、請求書の発行時に近況報告をしている。又、敬老会などの行事の中で、全職員の紹介を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に声かけをして要望や意見を出してもらう機会を設け、疑問に対しては説明して納得を得られるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る場合は、研修期間やパート勤務期間を設けて、入居者やご家族へ徐々に馴染んでもらえるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けた職員が、ホームへ持ち帰り報告をすると共に、二ヶ月に1回、法人内での勉強会を開いている。外部研修については、内容によって受講する職員を決めているが、職員の段階に応じた計画的な取り組みは十分とは言えない。	○	職員の経験や役割に応じて、さらに充実した学びの機会が確保できるように、より計画的な取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や南薩地区のグループホーム協議会に参加し、管理者同士で情報交換を行うと共に、職員が他のホームの見学や実習に出向くなどの交流を通して、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は、同一敷地内のデイサービスを利用していた方が多く、レクリエーションや催しを合同で行いながら、職員とも馴染みの関係を築き、安心感を持ってもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から地域の昔話を聞き、それを基に紙芝居を作成したり、歌を教えてもらうなど、一緒に楽しめる機会を作っている。又、調理の方法や子育てについて教えてもらいながら、支え合う関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に個別面談を行い、希望や思いの把握に努めると共に、日々の生活の中で、自分で選択できる場面を多く作るなど、意向をくみ取るように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族から思いや意見を聴取して計画に反映させている。カンファレンスを開いて、職員からの意見を含めて介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族に会議出席を依頼したり、出席できない場合は電話で要望を聴取し、それらを取り入れながら状態の変化時や、三ヶ月毎の定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム所属の看護師や理学療法士が、個々の状態に合わせて、リハビリを取り入れた活動や支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族が希望するかかりつけ医となっており、受診の際は、ホームの職員が付き添い、検査や受診の結果についてご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、ご家族の意向を確認しており、状態の変化がある時は都度に話し合い、医療機関をはじめとする関係者と協力して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には、プライバシー保護や個人情報保護についての誓約書を提出してもらい、責務の重要性と意識の向上に努めると共に、具体的な説明・指導を行い、認識を深める取り組みを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールを作成する際、外出など入居者の希望を聞き入れ、個々の意見を尊重しながら柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の方々が差し入れてくださった季節の食材を利用したり、苦手な食べ物がある場合は代替りのものを提供するなど、柔軟に対応されている。又、食事の下ごしらえや皿拭きなど、個々の力量に合わせて、力が発揮できる機会を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴は毎日午後からと決まっており、週に2～3回は入浴できるように支援し、入浴の順番は決めずに自由であり、入居者の意思や希望・状態に合わせた対応が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や農作業などの部分的な仕事をしていただいたり、作業が難しい方は歌で応援するなど、一人ひとりの力量や経験を活かせる場を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・外気浴など、個々の状態や希望に合わせて、戸外へ出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室共に鍵をかけておらず、地域住民の協力が受けられるように働きかけ、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの呼びかけにより地域防災協力隊が作られ、年に2回の防災訓練を、消防団・入居者を含めて行い、放水訓練や夜間想定での訓練を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事摂取量を記載し、外部の栄養士より、バランスや摂取量についてのアドバイスをもらっている。又、水分摂取量の目安を決め、お茶や水を取りたがらない入居者に対しては、紅茶など好みの飲料を出すなどして水分不足が起こらないように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれに好みの暖簾を自分で選び、居室の入り口にかけてあり、季節の花々をいたるところに飾り、季節感を感じられる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には植木鉢や思い出の写真など、好みや馴染みの物が置かれ、生活スタイルや希望に合わせてフローリングの床を畳敷きの部屋にするなど、入居者の居心地の良さに配慮されている。		